

くすりのしおり

内服剤

2022年11月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：メソトレキセート錠 2.5mg

主成分：メソトレキサート (Methotrexate)

剤形：淡黄褐色の割線入りの錠剤、直径 6.4mm、厚さ 3.1mm

シート記載など：LL、M1



この薬の作用と効果について

葉酸を活性型葉酸にする酵素の働きを阻止したり、正常細胞や感受性の高い癌細胞に取り込まれることで、細胞増殖抑制作用、殺細胞作用を示します。

通常、急性白血病、慢性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、絨毛性疾患（絨毛癌、破壊胎状奇胎、胎状奇胎）の治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。肝障害、腎障害、胸水、腹水がある。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・**白血病**：通常、成人は1日量 2～4 錠（主成分として 5～10mg）、小児は1日量 1～2 錠（2.5～5mg）、幼児は1日量 1/2～1 錠（1.25～2.5mg）を1週間に3～6日服用します。
- ・**絨毛性疾患**：通常、成人は1日 4～12 錠（主成分として 10～30mg）を1クールとして5日間服用します。休薬期間は7～12日間で、前回の服用によって副作用があらわれた場合は、副作用が消失するまで休薬します。
- ・いずれの場合も、年齢・症状により適宜増減されます。必ず指示された服用方法に従ってください。
- ・この薬を使用する前に、血液検査で肝炎ウイルス感染の有無を調べます。
- ・飲み忘れた場合は、2日以内であれば気がついたらすぐに服用してください。2日以上飲み忘れた場合には医師に相談してください。絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ・誤って多く飲んだ場合は医師または薬剤師に相談してください。血液障害や消化管障害（発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸、息切れ、胸やけ、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる、腹痛、黒い便が出る）があらわれることがあり、死亡にいたったとの報告もあります。誤って多く飲んでしまったら、直ちに受診してください。
- ・医師の指示なしに、飲むのを止めないでください。

生活上の注意

- ・骨髄機能抑制、肝・腎機能障害などの重篤な副作用が起こることがありますので、頻回に臨床検査（血液検査、肝・腎機能検査、尿検査など）が行われます。その場合には、指定された日時に検査を受けてください。
- ・出血性腸炎、消化管潰瘍・出血などの消化管障害があらわれることがありますので、口内炎、激しい腹痛などがあらわれた場合には、直ちに医師に連絡してください。
- ・感染症や出血傾向（歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、あおあざができる、鼻血など）の症状、発熱、けん怠感があらわれた場合には、直ちに医師に連絡してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、発疹、蕁麻疹、かゆみ、発熱、光線過敏症などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・冷感、呼吸困難、血圧低下 [ショック、アナフィラキシー]
- ・発熱、咽頭痛、かぜのような症状 [骨髄抑制]
- ・食欲不振、全身けん怠感、皮膚や白目が黄色くなる [劇症肝炎、肝不全]
- ・尿量減少、顔などのむくみ、口渇 [急性腎障害、尿細管壊死、重症ネフロパシー]
- ・発熱、せき（からぜき）、呼吸困難 [間質性肺炎、肺線維症、胸水]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、光、湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。
- ・この薬を使用中に生ワクチン（風疹、おたふくかぜ、みずぼうそう、はしか、BCG など）を接種すると、ワクチン由来の感染を増強または持続させるおそれがあるので、この薬を使用中は生ワクチンを接種しないでください。接種を希望する場合には、医師に相談してください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。